

報道関係各位

2015年12月16日

ツバキ・ナカシマがグローバル化を加速し、東証一部再上場 さらなる「利益ある成長」をカーライルが支援

カーライル・グループ

グローバルに展開するオルタナティブ投資会社であるカーライル・グループ（日本共同代表：安達保/山田和広、本社：米国ワシントン D.C.、以下カーライル）は、投資先の株式会社 ツバキ・ナカシマ（東証一部、銘柄コード 6464、本社：奈良県葛城市、取締役兼代表執行役 CEO：高宮 勉、以下ツバキ・ナカシマ）が2015年12月16日をもちまして、東京証券取引所第一部に株式公開し、再上場しましたことをお知らせいたします。

ツバキ・ナカシマの東京証券取引所への上場の際して、カーライルは保有する株式のうちの約51%を売り出すとともに、うち約2%をオーバーアロットメントに充てます。

ツバキ・ナカシマは、世界トップクラスの球面加工技術を持つ、グローバル鋼球・精機メーカーであり、日本に加え、米国、ポーランド、中国、インド、台湾、イギリス、タイ、シンガポール及び韓国で製造販売を行っております。

ツバキ・ナカシマは非公開化以前、東京証券取引所第一部に上場していましたが、短期的な業績変動にとらわれず、激変する経営環境に対し、機敏に反応し、安定的かつ持続的な企業価値向上を成しうる企業体質を構築するために、2007年5月にMEBO（マネジメント・エンployee・バイアウト）を実施し、非上場化いたしました。その後、2011年3月からはカーライルが新たな筆頭株主となり、ツバキ・ナカシマはカーライルとの緊密な連携・協働のもと、企業価値の向上を目的として、グローバル経営体制の強化を推進するとともに、中国、欧州、アジア地域を中心に、海外展開を更に加速化してまいりました。また、新素材セラミック球の開発に成功し、かつ量産体制を構築したことで、当該事業においても高い成長率を実現してまいりました。その結果、当初のMEBOの目的は概ね達成できたものと判断し、次なる成長を志向するために今回の再上場を決定するに至りました。尚、再上場後も、カーライルはツバキ・ナカシマの長期的な会社成長を実現すべく、ツバキ・ナカシマを支援し続けていく予定であり、カーライル・ジャパン・エルエルシーのマネージングディレクターである大塚博行が、引き続きツバキ・ナカシマの社外取締役として従事する予定です。

ツバキ・ナカシマの高宮 勉取締役兼代表執行役 CEO は本件に関し次のようにコメントしています。

「2007年の非上場化以来、ツバキ・ナカシマを信頼し支えてくださったお取引先様、関係者の皆様、そして何よりも非上場化の際にご理解、ご協力をいただいた当時の株主の皆様にご感謝申し上げます。カーライルには組織面・事業面の双方において、当社の企業価値向上に多大なご尽力を頂きました。弊社はグローバル・ワン・ツバキ・ナカシマの方針のもと、『Further Profitable Growth(さらなる利益ある成長)』を実現し、『企業価値を継続的に創造し続ける輝く企業』を目指し、挑戦を続けております。この度の再上場を新たなスタートとして、従業員一同、上場企業としての社会的責任を一層自覚し、株主の皆様のご期待に沿うよう、努力してまいります。」

カーライル・ジャパン・エルエルシーの安達保マネージングディレクター、日本共同代表は本件に関し次のようにコメントしています。

「カーライルは2011年3月に投資を実施して以来、ツバキ・ナカシマと協働して、グローバル経営体制の強化及び事業成長戦略を実現すべく、積極的な支援活動を継続的に展開してまいりました。ツバキ・ナカシマは従前より素晴らしい技術力、製品力、企業文化などを持っている会社でしたが、カーライルのグローバルプラットフォームを最大限ご活用頂いたことで、グローバ

本記者発表文は、米国における証券の募集又は販売を構成するものではありません。株式会社ツバキ・ナカシマ普通株式は1933年米国証券法に従って登録がなされたものでも、また今後登録がなされるものでもなく、1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行う又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の募集又は販売を行うことはできません。米国における証券の公募が行われる場合には、1933年米国証券法に基づいて作成される英文目論見書が用いられます。その場合には、英文目論見書は株式会社ツバキ・ナカシマ又は売出人より入手することができます。同文書には株式会社ツバキ・ナカシマ及びその経営陣に関する詳細な情報並びに株式会社ツバキ・ナカシマの財務諸表が記載されます。なお、本件においては、米国内で公募を行うことを予定しておりません。

THE CARLYLE GROUP

ル経営体制の確立や海外事業展開の加速化を実現できたと考えています。ツバキ・ナカシマの再上場にあたり、経営陣、社員の皆様に改めて敬意と感謝の意を表するとともに、ツバキ・ナカシマの益々のご発展を祈念しております。」

【カーライル・グループについて】

カーライル・グループ(CG:NASDAQ)は、グローバルに展開するオルタナティブ（代替）投資会社で、2015年9月30日現在、126のファンドおよび160のファンド・オブ・ファンズを運営し、その運用額は総額で1,880億ドルにのぼります。カーライルの目的は、多くが年金基金である投資家のために、賢明な投資を行い価値を創造することです。カーライルは、アフリカ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、中東、北米、南米において、4つの分野「コーポレート・プライベート・エクイティ」「リアルアセット」「グローバル・マーケット・ストラテジー」「インベストメント・ソリューション」で投資活動を展開しています。カーライル・グループは、航空・防衛、ガバメントサービス、消費財・小売、エネルギー、金融、ヘルスケア、一般産業、不動産、テクノロジー、サービス、通信、メディア、輸送など、幅広い業界における知見を有しています。現在世界6大陸の35のオフィスに1,700名以上の社員がいます。

【株式会社 ツバキ・ナカシマについて】

会社概要	
会社名	株式会社ツバキ・ナカシマ
設立	1936年6月1日
代表者	取締役兼代表執行役 CEO：高宮 勉
本社	〒639-2162 奈良県葛城市尺土19番地
資本金	158億8424万円
事業内容	球軸受用鋼球、セラミック球、超硬合金球、ガラスボール、プラスチック球、カーボン鋼球などの各種産業用精密ボール、ボールねじ及び遠心送風機等のリニア製品の製造販売
従業員数	連結1,886名（2015年10月31日現在）

以上

報道関係の方からのお問い合わせ先

■カーライル・グループ

広報代理店：オグルヴィ・パブリック・リレーションズ・ワールドワイド・ジャパン株式会社

担当：中山 奈央子、関満 亜美

Tel：03-5793-2388/5791-8725

E-mail：CarlylePress.Tokyo@ogilvy.com

本記者発表文は、米国における証券の募集又は販売を構成するものではありません。株式会社ツバキ・ナカシマ普通株式は1933年米国証券法に従って登録がなされたものでも、また今後登録がなされるものでもなく、1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行う又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の募集又は販売を行うことはできません。米国における証券の公募が行われる場合には、1933年米国証券法に基づいて作成される英文目論見書が用いられます。その場合には、英文目論見書は株式会社ツバキ・ナカシマ又は売出人より入手することができます。同文書には株式会社ツバキ・ナカシマ及びその経営陣に関する詳細な情報並びに株式会社ツバキ・ナカシマの財務諸表が記載されます。なお、本件においては、米国内で公募を行うことを予定していません。